

次期計画（案）

第 4 章 振興施策

第 2 節 施策の実施方針

1 森林の有する多面的な機能の発揮

（１）快適な暮らしを守る森林づくり

境界明確化や所有者への意向調査により森林の整備を進めるとともに、松林など暮らしを守る森林の保全に努めます

地籍調査が行われていない地域においても適切な森林整備が実施できるよう、森林環境譲与税を活用し、境界明確化の推進に取り組めます。

林業経営に適さないスギ・ヒノキの人工林については、広葉樹林化や針広混交林の複層林化など、多様な森づくりを進めることにより、花粉症のアレルギー物質の軽減や、生物多様性の保全を図ります。

また、今後の管理方針について所有者への意向調査を継続し、森林経営管理制度に基づく適切な経営管理を推進します。

松くい虫対策については、引き続き、薬剤の地上散布などの防除を徹底するとともに、抵抗性松苗の植林など、地域と連携した松林の保全・再生活動に取り組めます。

また、山地災害を防止するため、県と連携して土砂崩壊防止のための治山事業を推進するとともに、森林環境譲与税などの財源を確保し、防災上整備が必要な林道への対策を進めていきます。また、面的な森林整備を実施する際には災害のリスクを軽減する施業方法を採用します。

市営林によるカーボン・オフセットの取組みについては、引き続き企業などへのPRを図り、クレジットの活用による森林整備の推進を図ります。

(2) 市民に身近で魅力ある森林^{もり}づくり

油山市民の森の再整備など、市民が森林に親しみ理解を深めるための取り組みを実施します

地球温暖化対策やSDGsによる意識の高まりを捉えて、「森林づくり」や「市域外も含む水源地とのつながり」などに対する市民の理解を醸成していくための普及啓発に努めます。

油山市民の森は、様々なニーズに対応した身近な体験活動・森林環境教育の場として、市民が「森で楽しむ」きっかけとなる施設を目指し、再整備を進めます。

NPOやボランティア団体による森林づくりについては、国の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」をはじめとする様々な支援事業を活用しながら推進していきます。

また、木を使うことが森林の保全につながるということが十分知られていないため、市民の目に触れやすい公共施設の木質化や、イベントにおける木製品の展示や配布、木育の取り組みなど、市民への「木づかい」のPRを積極的に行います。

2 都市型・循環型林業の構築

(1) 森林資源活用に向けた基盤づくり

低コストで木材を搬出できる路網整備など、計画的な生産基盤づくりに取組めます

森林基幹道「早良線」沿線の利用間伐等を効率的に推進していくため、令和2年度に行った路網整備の検討を踏まえ、路網整備の具体的な手法について関係者と協議を進めていきます。

災害を防止するために、定期的にパトロールを実施するとともに、林道における除草や排水施設の清掃等の維持管理を実施していきます。市が管理する林道の23橋については橋梁長寿命化計画に基づき、計画的な橋梁の維持補修に努めます。

森林の土地の所有者や林地の境界に関する情報を整理した林地台帳について、周知に努め、情報の追加・修正により精度を高めることで、森林整備や資源活用に生かしていきます。

人材の不足に対応するため、自伐林家などの取組みの広がりを把握し、森林に関する知識や木材生産及び安全作業等の技術の普及を図るなど、多様な担い手の育成に努めます。

（２）持続可能な林業経営の推進

地域産材の積極的な利用により林業生産・森林整備を活性化します

二酸化炭素の吸収源や水源涵養、土砂災害防止など、森林がもたらす多様な恵みを受けるためには、持続可能な林業経営により、森林資源を「伐って、使って、植える」循環利用を図ることが必要です。

森林組合をはじめとする林業事業体等による森林経営計画の策定支援について、引き続き取組んでいくとともに、令和元年度にスタートした森林経営管理制度に基づき、森林所有者への意向調査を実施し、意欲と能力のある林業経営者への委託や、森林経営計画の策定など、集約的な経営管理を推進することにより、森林の公益的機能の維持増進を図ります。

分収林事業については、森林の状況や所有者の意向などに応じた適正な管理と、林業資源ビジネス化プロジェクトによる利用間伐などを実施し、収益化の確保に引き続き取組んでいきます。

建築物等の木材利用が注目を集めている時流を捉え、「木を使う」ことに積極的に取組み発信します。

地域産材の伐採から製材、利用に至る供給の仕組みづくりを行い、公共施設の整備計画にあたり木造・木質化を推進します。あわせて、整備段階や整備後における様々な効果を検証し普及に努めます。

また、公共建築物の建築等に携わる職員を対象に木材利用の研修会等を実施し、公共建築物での先導的な取組みを推進するとともに、民間の技術者に対しても木を使うことの重要性を啓発していきます。